

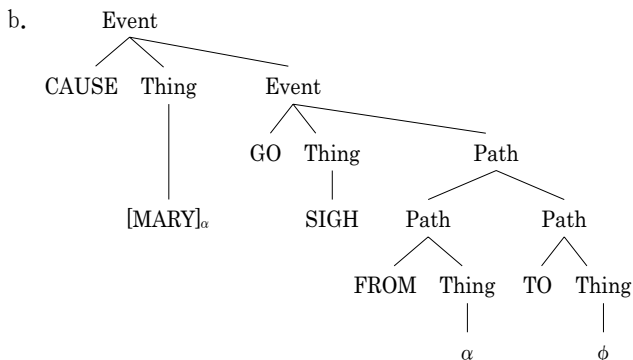
## 意味表示と義務的コントロール\*

井上 和子

### 1. はじめに

Inoue (2004) において、意味表示には二種類の空範疇があり、それぞれ統語表示における義務的コントロール (PRO<sub>obl</sub>) と随意的コントロール (PRO<sub>arb</sub>) に相当するものとの提案を行なった。たとえば、(1a)の文は、(1b)のような

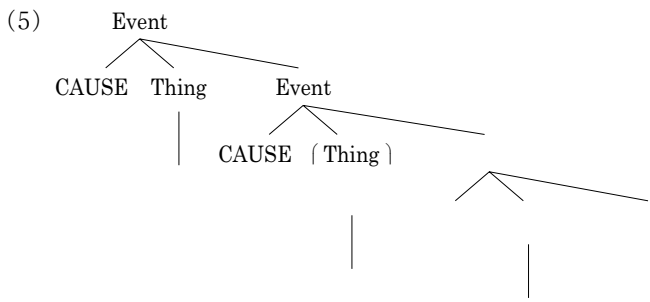
(1) a. Mary sighed.



(1b)において、 $\alpha$ が義務的コントロールに、 $\phi$ が随意的コントロールに、それぞれ対応するものである。なお、この関数構造において、CAUSE、GO、FROM、TOは関数である。そして、たとえば、CAUSE関数は二つの項を取り、その最初の項はカッコ内に入っている項(variable) [MARY]であり、もう一つの項はGO関数からなるEventである。また、GO SIGHは定項(constant)である。 $\alpha$ は [MARY] という先行詞をもつものに対し、 $\phi$ は不 のものを

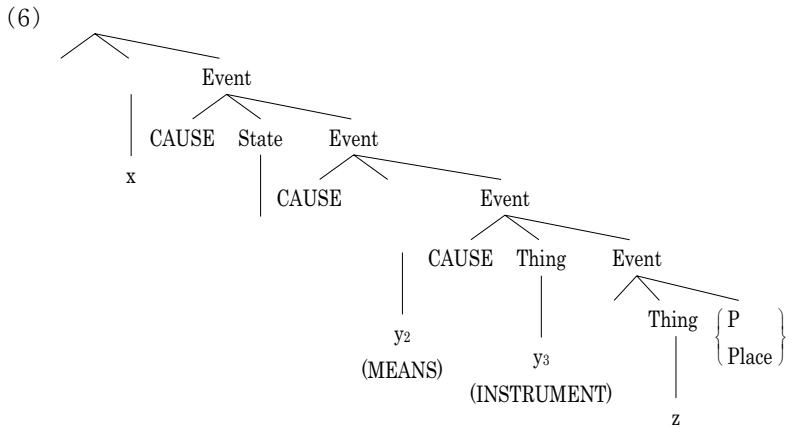






(5)にお **は** **は** に **は** . . . に  
 対応する項であり、z は主題に対応する項である。Croft  
 におけると同様に、「使役の連鎖」は潜在的には無限に拡張しうると考えら  
 れるので、動詞の特性によっては本モデルにおいても一つ以上の中間的  
 CAUSE関数を想定することは こと する

そしてさらに、(5)における y の位置の中での道具・手段・様態の相対的  
 位置は以下のようにであると想定する：



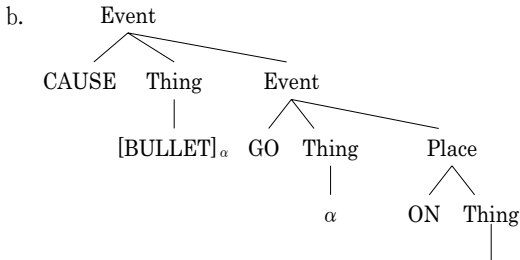
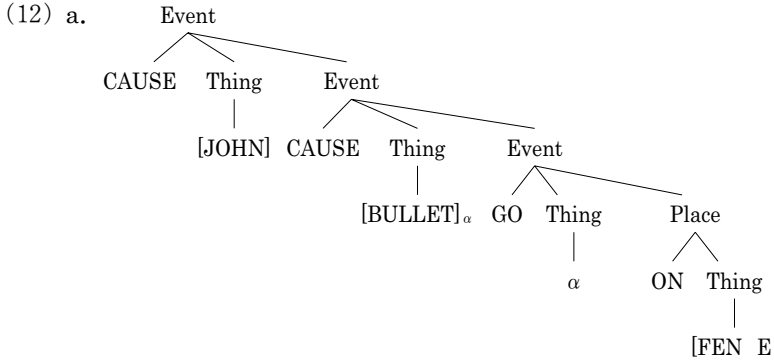
なお、LCSから項構造への結びつけ規則に関しては、少なくとも以下の  
 (7)–(9)の三つの規則が関わっていると考える。

TD ( ) 9.7 ( ) Ti 0.5363 0 TD ( ) T5553 0 TD ( ) 0.6669 ( ) Tj 0.6

が挙げられる。以下の(11a, b)における動詞*hit*の論理構造は、(12a, b)のように表示される：

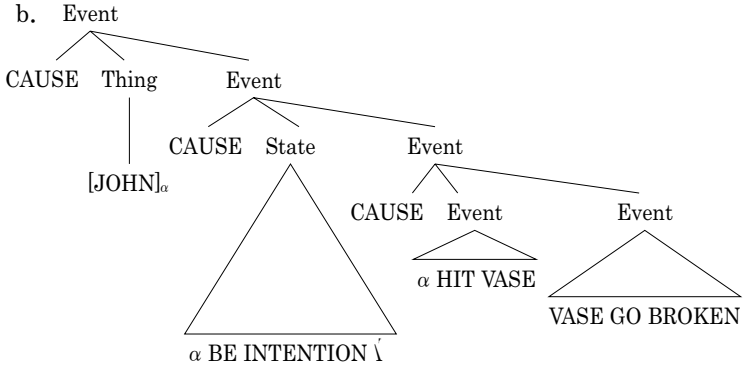
(11) a. He hit the fence with a bullet.

b. A bullet hit the fence.



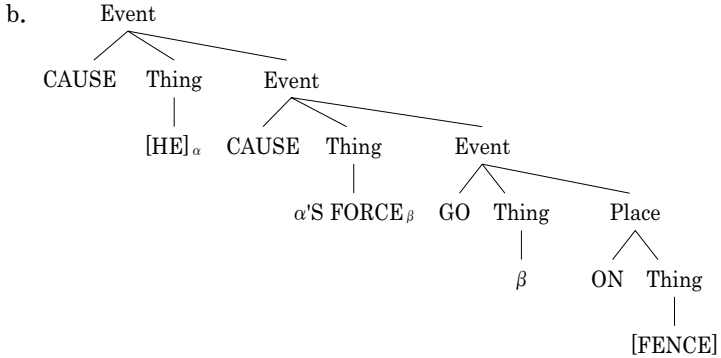
また、様態の付加詞*intentionally*と手段の付加詞を含む(13a)の文は(13b)の

(13) a. John intentionally broke the vase by hitting it.



しかしながら、変項のみがコントローラーとなりうる訳ではない。たとえば、(11a)の*hit*に対して、(14a)の*hit*の用法は**FORCE**という定項を包入しており、(14b)の図に見られるようにβを

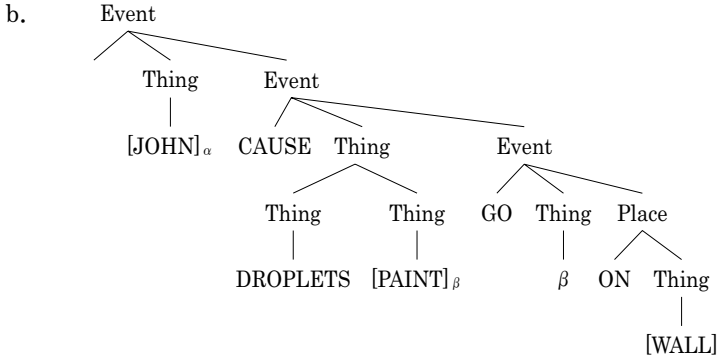
(14) a. He hit her with a bullet.



(11a) [BULLET] がフェンスと衝撃を伴って接触をするのに対し、(14a)ではジョンの体からくる力をもって接触することになる。従って、βのコントローラーはαを含む定項ということになる。

また、動詞 *hit* のwithを伴う Inoue (2001:689) では以下のよう

(15) a. John sprayed the wall with paint.



ここでは  $\beta$  のコントローラーは定項と変項の両方を含む ‘DROPLETS (of) [PAINT]’ である。<sup>1),2)</sup>

従って、義務的コントローラーとなりうる要素は、一つには変項であるが、その  $\beta$ 、 含、 の  $\beta$  である。これらを含んでいる空範疇を含む定項も、ありうると言えよう。

#### 4. コントロールされる要素はどのようなものか？

本節では、コントロールされる要素に関して、次の二点を探ってみたい。一つは、コントロールする要 コントロール する要 は、

能かどうか、という問題である。

まず、前者の問題の検討から行なうが、その前に統語論でのコントローラーとコントロールされる要 と である。これらを含んでいる原則は、Rosenbaum (1970) の “Minimal Distance Principle” である：

(16) Minimal Distance Principle (MDP)

An infinitive clause selects as its controller the element closest to it.



controller the minimal c-commanding noun phrase in the functional complex of P.

統語構造と意味構造は、本質的には別個のものであるので、単純に同じ

infinitive complementと、構造的に、  
noun phraseに相当するものが [Thing] argumentと仮定して、考えてみることにする。このように考える時、たとえば、(12a)の構造で、 $\alpha$ のコントローラーは、 $\alpha$ をc-commandしている最短の [Thing] argumentである [ ] であって [JOHN] でないことは明らかである。(12b)に関しても、やはり $\alpha$ のコントローラーは [BULLET] であると正しく予測 MDPに相当する原則に単純に従うならば、コントローラーはSIGHであって [MARY] ではないはずであ (12a)と(1)との違いは何を意味しているのであろうか。おそらく、これは(12a)の変項 [BULLET] と(1)の定項SIGHの相違からくと思われる。(12a)では $\alpha$ のコントローラーが変項 [JOHN] であるためには同じく変項である [BULLET] が障壁となっているのではないか。それに対し、定項SIGHは音形をもたず<sup>3)</sup>、統語表示のレベルでは動詞*sigh*に編入されてしまっているの、 $\alpha$ が変項 [MARY] によってコントロールされるのに障壁とはならないのではないかと思われる。

また、(14b)や(15b

a)と同様、最上位の [Thing] argumentが $\beta$ のコントローラーとなるための障壁となるとき、(12a)に見られるように、 $\beta$ のコントローラーとなるための障壁となるという状況は、統語論での義務的コントロールにも見られる状況である。よく知られているように、to-不定詞をとる*persuade*や*force*といった動詞は‘object control’であると言われる。これは言い換えれば、母型文の主語のNPが不定詞のPROのコントローラーになりうるのを、目的語のNPが阻む障壁となっているということである。コントロー

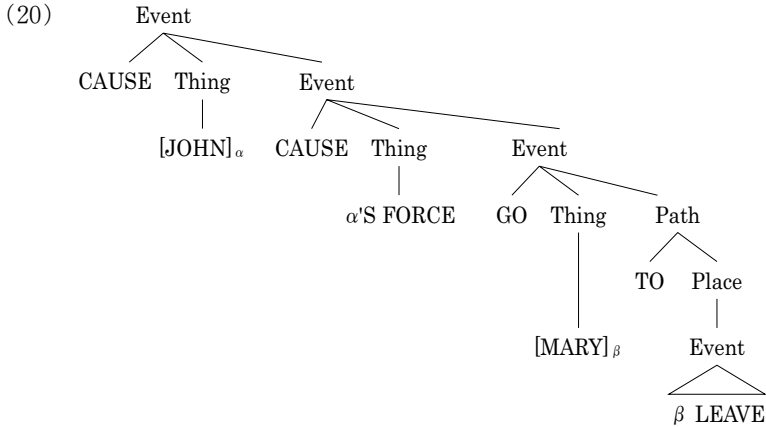


- (18) a. John forced Mary to leave.  
 b. \*John forced to leave.  
 c. \*John forced Mary an action.  
 d. \*John forced to leave to Mary.  
 e. Mary was forced to leave.
- (19) a. John promised Mary to leave.  
 b. John promised to leave.  
 c. John promised Mary a present.  
 d. ?John promised to leave to Mary.  
 e.  
 f. John promised Mary to be allowed to leave.  
 g. Mary was promised to be allowed to leave.

まず、(18a)と(19a)のコントロール *object control* であるのに対し、後者は*subject control*であるということにある。(18b)と(19b) *NP*を省略できないのに対して、後者はできるということを、示している。(18c)と(19c)の対比が示しているのは、*force* a)と並行する三項構文が存在しないのに *promise*の場合は存在するという点である。(18d)と(19d)の対比は、a)に対応する(18d)は容認不可となるが、(19a)に d)は容認度は下がるものの可能である。(18e)と(19e)の対比が示しているのは、*force*は(18a)に対応する受身文(18e)が可能であるのに *promise*は(19a)に対応する受身文(19e)は可能ではない。また、(19f, g)が示しているのは、*promise*の不定詞中の述語が(19f)のように受動態の場合、*PRO*は目的語のメアリーを指すと解釈され、そしてそのような場合のみ、(19g)におけるように受動文が

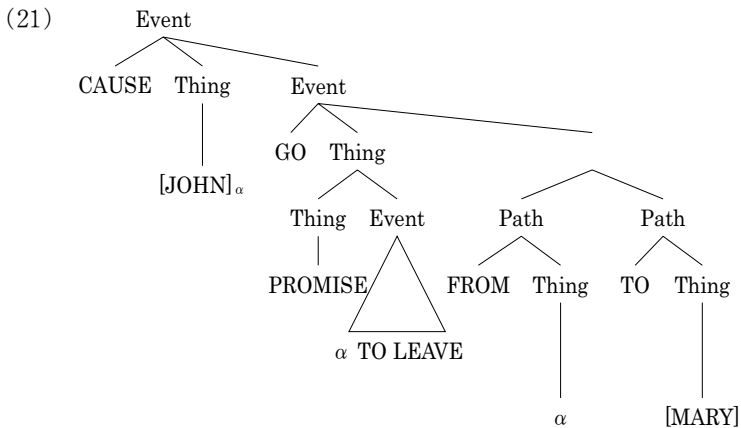
では、これらの対比が、意味表示におけるコントロールという概念を導入することによって、どのように説明されるか見ていくことにしよう。まず、(18a)のような文は、意味表示では(20)のような構造をもつと考えま

する：



(20)の構造が意味しているのは、「ジョンは自分の力を用いて、メアリーが立ち去るという事態に至らしめる」ということである。<sup>4)</sup> (20)の構造において、 $\beta$ のコントローラーがメアリーであってジョンではないのは、第4節で述べたように、 $\beta$ を している最短の変項はメアリーだからである。言い換えれば、[JOHN]が $\beta$ のコントローラーになることができないのは、変項 [MARY]が障壁となっているからである。

一方、(19a)の文は(21)のような概念構造をもつと想定する：





b. *Mary*



(なお、ここでby-phraseがFROM関数で表わされると考えるのは、多くの言語において、これが起源を表わす前置詞句等で表わされることによるものである(e.g.日本語 カラ；独語von；OE fram)) (i)において、[ TO LEAVE] の $\alpha$ を、c-commandしている最短の項は、関数中の最初の項であるが、これもやはりコントロールされている項であって、変項ではないからである。

6) このことを示しているのは、以下のようなitを用いた受身文の存在である：

- (i) It was never promised to Mary [[to be allowed to leave]]  
(1991 : 282)

## References

- Chomsky, Noam (1981) *Lectures on Government and Binding*, Foris, Dordrecht.
- Croft, W. (1991) *Syntactic Categories and Grammatical Relations*, University of Chicago Press, Chicago
- Farkas, Donka F. (1988) “On Government and Binding Theory”, *Linguistic Inquiry* 15, No. 1, 27-58.
- Haegeman, Liliane (1991) *Introduction to Government and Binding Theory*, Basil Blackwell, Oxford
- Huang, C.-T. James (1984) “Empty Pronouns”, *Linguistic Inquiry* 15, No. 5, 1-5
- Inoue, Kazuko (2001) “Verb Meaning vs. Case in Meaning: The Cases of *Hit*, *Spray* and *Load*, (Review Article: A Lexical Network Approach to Verbal Meaning, by Seizi Iwata, Kaitakusha, Tokyo, 1998.) *English Linguistics* 18, No.2, 670-695.
- Inoue, Kazuko (2004) “An Exploration into Action: The Case of English Sound Emission Verbs”, *Studies in Language and Culture* 30, 57-81.
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』ひつじ書房.
- Koster, J. (1991) “On Binding and Control”, *Linguistic Inquiry* 15, No.3, 417-459.
- Larson, Richard K. (1991) “Pronouns and P-Projection”, *Linguistic Inquiry* 15, No.3, 417-459.



*Transformational Grammar*, Ginn, Waltham, MA.

## Some Notes on Semantic Representation and Obligatory Control

Kazuko Inoue

It is proposed in Inoue (2001, 2004) that there are two kinds of empty categories distinguished in conceptual reference: (i)  $\alpha, \beta, \gamma \dots$  and (ii)  $\phi$ . The former,  $\alpha, \beta, \gamma \dots$  is obligatory in that it obligatorily requires an antecedent. The latter, on the other hand,  $\phi$  is arbitrary in that it requires no specific reference. The purpose of this paper is to explore the properties of obligatory control on semantic representation for the former category and the relationship of the former to the

latter. The paper is a preliminary study and a detailed analysis of obligatory control is left for future research.

The author would like to thank the anonymous reviewers for their helpful comments.

Correspondence: Kazuko Inoue, Department of Linguistics, University of Toronto, 78 St. George Street, Toronto, Ontario, Canada M5S 1A5. E-mail: inoue@uoft.ca

Received: 10 October 2005; Accepted: 15 February 2006

© 2006 The Author. Journal compilation © 2006 Blackwell Publishing Ltd

This article is a U.S. Government work and, as such, is in the public domain in the United States of America.

$\phi$

obligatory control

$\phi$

arbitrary control

semantic representation